

学校教育目標

豊かな未来を拓く 児童の育成



信じる 11月

- 子供が荒れる「魔の11月」に向けて
- ☆自分たちの実践（研究内容）を信じる
- ☆子供たちの自覚・可能性を信じる

趣 旨	留 意 点
1. 「荒れ」を想定して対応する (1) 日照時間が短くなり、脳内のセロトニンが不足することにより、心理的不安が増す (2) 心理的・物理的「死角」を見過ごさない ① トイレのスリッパ、下駄箱の靴 ② 筆箱の中身 ③ 表情、しぐさ ④ 友達関係の変化 等	1. 問題のない学校・学級はない (1) 「セロトニン5」を意識したかわり ①見つめる ②微笑む ③話しかける ④触れる ⑤褒める ※屋外での遊びも推奨する (2) 「あれ?」「ちょっと待てよ?」と些細な違和感に敏感になる ※ 「弱っている」子には、あえて「マイナス」の声かけをする ・例：元気?(×) ・調子悪い?(○)
2. 行事体験を、次に活かそう ・研究発表会、音楽発表会、校外学習 等	2. 行事後「頑張っていた」で終わらせない。行事を通して、子供達に学んだことをメタ認知させたい。
3. 「分かる・できる」を実感させる授業 (1) 「つまずき」への丁寧な対応 (2) 「学習の振り返り」の工夫 (3) 学力向上プラン…自分の考えを表現させる工夫	3. 研究内容を更に一步進める授業改善 } → 12月CRTテストにつなぐ
4. 心身の健康 (1) 体育の授業で、「汗をかくまで」体を動かす。その後の汗の始末。 (2) 基本的な生活習慣の定着 ※とみえゲンキッズチャレンジ結果を参考に	4. 家庭と連携した取組 (1) ブルーラインマラソンに8割以上参加させる (2) 早寝・早起き・朝ご飯 ゲーム・メディアコントロール
5. 感染症対策 (1) これまでの対策を徹底する。	5. 学校内で感染をできるだけ広げない (1) 手洗い・うがい・換気 必要に応じた消毒
意識を揃えて取り組もう	
学 習	生 活
○ 自分の考えを相手に伝えよう	○ 友だちのいいところを伝えよう